認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第149号 (R6.1.10)

事務局:宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責:日髙良雄

はじめに 明けましておめでとうございます。辰年の新年を迎えましたが、 元旦に能登半島地域で大規模な地震が発生し、羽田空港でも航空機事故が起こ るなど、不安に包まれた新年となっています。亡くなられた方々のご冥福をお 祈りしますと共に、被害に遭われた地域の一刻も早い復興を祈るばかりです。

さて、ORMZ ニュース第 149 号では、昨年の活動経過のご報告、12 月の巡回診療状況などについてお伝えします。

2012 年から始まった当法人の活動を支えていただいた多くの皆様に心から感謝申し上げますとともに、現地スタッフの頑張りにもエールを送りたいと思います。

2024年は当法人にとって節目の一年となるのではと考えておりますが、皆様に検討状況をお伝えしながら本年の活動を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いします。



現在、2023事業年(1月~12月)の活動のまとめ、決算等を行っています。詳しくは次回のニュースでお知らせします。

2023年一年間の主な活動状況は以下のとおりです(ヘルスポスト建設関連は最後にまとめました)

- ・新型コロナウイルス感染症患者数が減少しており、1月から 巡回診療を実施し、合計37回、4047名(速報値)の診療等を 行いました。
- ・2月5日理事会、2月12日通常総会を開催しました。総会では、2022事業年活動報告、決算、2023事業年活動計画案、予算案等について承認を受けました。総会については、定款の規定にもとづくメールによる正会員への協議依頼を行い、協議事項について全員から原案すべてに賛同との承認を受けました。
- ・2月15日付けORMZニュース第138号にて、活動報告、決算、2022事業年の活動計画、予算等について皆様にお知らせしました。
- ・2月22日、写真家の上山敦司氏がニャンカンガの巡回診療に同行され、後日、その際の様子を記録された動画が YOU TUBE に投稿されました(https://www.youtube.com/watch?v=owvI-BQpv0Y)。巡回診療の様子がよくわかりますので、是非ご覧になってください。
- ・4月26日、藤田医科大学医学部6年生の北川結惟さんと佐藤祐一郎さんが、5月24日、長崎大学大学院熱帯医学ゲローハデルハルス研究科所属の大学院生、鶴岡あゆみさんが、7月19日、浦添総合病院救急集中治療部所属の髙橋公子先生が、7月23日~8月5日の間、平戸市民病院、国境を越えた地域医療支援機構所属の高橋康太郎先生が、そして8月11日、慶應義塾大学公認学生団体、アフリカ医療研究会の皆さん(代表、薬学部3年黒川将さん)が、法人活動に参加されました。





・8月18日、宮崎西ロータリークラブの例会の場で、日髙が約100名の会員の皆様に、ORMZの活動について紹介を行いました。

・9月、巡回診療の対象 4 か所、ニャンカンガ 11 日、ルアノ 15 日、サンダラ 22 日、リテタ 30 日、それぞれの地域にコミュニティヘルスワーカー(CHWs: Community Health Workers)と住民保健委員会のメンバー(NHCs: Neighbourhood Health Committees)に集まってもらい研修を実施しました。

・9月の約1ヶ月間、(長崎大学病院感染症内科・国境を越えた地域医療支援機構の杉本尊史先生が現地を訪問され、巡回診療の同行や研修のお手伝い等を行っていただきました。



*ヘルスポスト建設関連

- ・5月5日、政府関係者及び複数の建設業者とヘルスポスト建設現地の視察を行いました。
- ・6月6日の臨時理事会にて建設業者を Camland 社と決定し、22 日正式に契約を交わしました。以後、順調に建設が進みました(ニュースでお知らせしたとおりです)。
- ・10月2日、チサンバ郡の担当官2名が現地を訪れ、建設状況の調査視察がありました。いくつかコメントが出され、業者に伝え改善が行われました。
- ・12月2日、建設作業が完了しました!
- ・12月26日、ヘルスポスト建設が終了したことを伝えに、建設場所の部族の酋長であるチーフ・チャムカ (Chief Chamuka) に会いに行きました。建設終了について、チーフは喜ばれ、ねぎらいと感謝の言葉を述べられました。
- ・現在、ヘルスポストに必要な資機材の調達をしています。また、公式に政府に施設を引き渡すまで、コミュニティの人と管理 (ヘルスポスト周辺の囲いをどうするか、ソーラーポンプの管理 (水タンクが空になったら、ポンプスイッチをオンにし、タンクが満タンになったらスイッチを切る) は誰が責任を持って行うか) や、これまで巡回診療活動に使用してきた仮の建物の取り壊しなどについて話し合いを行っています。

完成した建物で巡回診療を実施



現地活動報告(山本ひとみ) 【巡回診療】

12月6日 ルアノ

- ・診療数 122 名、マラリア陽性数 7 名中 0 名 妊産婦検診 29 名 道中の診察 1 名
- ・主な訴え、疾患等:気道感染症、腰痛などからだの痛み、消化器疾患、目の疾患、皮膚疾患
- ・ 重症例、搬送例:なし
- 12 月 1 日 Child Health Week でチペンビルーラルヘルスセンターのスタッフにより、予防接種が行われた。そのため、6 日は予防接種はなし。
- ・
 ・
 ・
 ・
 上月チペンビルーラルヘルスセンターに行った 31 歳女性。まだ、出血が続いていると言う。チペンビ
 に
 被送する予定だったが、女性が家に帰ってしまっていたため搬送できず。
- ・ヘッドマン5人とチェアマンとでヘルスポストに関わる残りの作業(古い建物の解体、診療室の改築・ 改良、ポンプスイッチの管理など)について話し合いをした。

12月13日 サンダラ

・診療数 58 名、マラリア陽性数 3 名中 0 名 妊産婦検診 17 名 道中の診察 3 名

- ・主な訴え、疾患等:気道感染症、腰痛などからだの痛み、胃腸炎、う歯(口腔内疾患を含む)
- 重症例: なし
- ・搬送例:1名(出産予定日を1か月以上過ぎている女性。チペンビルーラルヘルスセンターに搬送)
- ・12月1日 Child Health Week でチペンビルーラルヘルスセンターのスタッフにより、予防接種が行われた。11月29日の予告日程から実施日が変わったため、予防接種を受けた子は少なかったと聞いたが、予防接種は行わなかった。
- ・9か月の女児。ここ数ヶ月、体重が増えていない。母親が「毎月毎月7Kgといわれる。測定が間違っているのではないか」と不満を言ったため、再測定したが、体重は合っていた。子供自身、健康に問題はないようだったため、様子を見る。



・腹水がたまっていた 47 歳の女性。チョングエ病院で 2.5L の水を抜き、薬を処方された。薬は所持金の都合により、すべて購入できなかったという。服薬が不足しているのも原因か、女性のおなかはすでに大きくなり始めていた。再度チョングエ病院に行くというので、帰路途中のカプチまで送った。

12月20日 リテタ

- ・雨期に入り、現地の人と道路状況を確認しながら活動を進めているのだが、リテタのチェアマンから の電話にて、川が増水し湿地帯の通行が困難とのこと、リテタでの巡回診療は中止と決断した。
- ・リテタ地区ではヘルスポストが建設され、スタッフが常駐し、地域の人がいつでも保健サービスを受けられるようになっていることから、当法人での巡回診療は今回を持って終了することとなった。
- ・最後の巡回診療が中止となり残念であった。

12月27日 ニャンカンガ

- ・診療数 80 名、マラリア陽性数 11 名中 4 名 妊産婦検診 12名 道中の診察 1 名
- ・主な訴え、疾患等:気道感染症、皮膚疾患、腰痛などからだの 痛み、胃腸炎
- 重症例:なし *心配なケース:妊娠2か月の女性、出血がある。巡回診療の前にMwapula Health Post に行ったが、出血は続いている。



- 予防接種の種類: OPV(経口ポリオ)& PCV(肺炎球菌)&DPT-HepB-Hib (五種混合:ジフテリア, 百日咳, 破傷風, B型肝炎, ヒブ)&ROTA(ロタウイルス):18, BCG:6, MRV(麻疹風疹):12
- ・前日の夜半からの降雨で、道路は水たまりが多かった。
- ・帰路中雨が降り続き、道は水が流れ川のような状態。幸いぬかるみはなく、道中にトラブルはなかった。
- ・雨が降りそうな天気だったためか、来訪者は少なかった。にわか雨が断続的に続いた。正午過ぎ、ほぼすべての患者さんを診終わったころ、大雨。20分ほど降り続き、患者さんも足止めを食らった。

賛助会費・ご寄附の納入は辞退します(不要となりました)

- ・2月開催予定の総会の協議にて今後の方針が決まるまで、賛助会費、ご寄附は辞退します(不要となりました)ので、ご理解くださいますようお願いいたします。
- ・これまでのご支援に心から感謝申し上げます。

多くの皆様のご支援に心から感謝申し上げます。